

工学部・機械工学科カリキュラム・アセスメント・チェックリスト

年 月 日作成 Ver.1

機械工学科のDP									
DP1: 自然との調和、人間と機械および社会との協調について、多面的な視点から考えて実践することができる。									
DP2: 機械技術が社会と自然に及ぼす影響と効果を理解し、倫理観と責任感のある技術者として正しい判断ができる。									
DP3: 機械工学の理解とその活用に必要な数学・自然科学・情報技術の基礎と応用に関する知識と能力を修得している。									
DP4: 機械工学に関する知識を利用して、機械技術をはじめとする幅広い問題に対処できる。									
DP5: 自ら課題を設定し、それを計画的に実行・解決するための創造力と継続的な学習能力をもつ。									
DP6: 技術者として必要な日本語によるコミュニケーション能力ならびに国際社会に必要な英語によるコミュニケーション基礎能力をもつ。									

番号	名称	実施時期	実施頻度	対象	質問項目(対応DP含む)	手法	評価者	実施責任者	結果の活用方法
1	卒業予定者に対するアンケート	1～3月	毎年	4回生	カリキュラムおよび卒業研究の満足度、学科に対する意見・要望など	質問紙	学生	FD委員	アンケート集計結果を教職員に開示し、今後の教育活動に参考にしてもらう。
2	卒業生に対するアンケート	7月	数年に1回	卒業した社会人	社会における大学教育の有用性(DP1～6)、学科に対する要望など	WEBを使用	卒業生	FD委員	アンケート集計結果を教職員に開示し、今後の教育活動に参考にしてもらう。
3	達成度表の点検	4月上旬、9月下旬	年2回	1～4回生	多面的な視点と倫理観(DP1, 2)、機械工学の基礎力と応用力(DP3, 4)、創造力(DP5)、コミュニケーション能力(DP6)	履修指導時に、達成度表によって各学習目標(DP)に対する達成度を点検する	学生生活担当教員	コース長	DP達成度を表すレーダーチャートをもとに履修指導を行う。
4	卒業研究活動記録	4～2月	毎週	4回生	多面的な視点と倫理観(DP1, 2)、機械工学の基礎力と応用力(DP3, 4)、創造力(DP5)、コミュニケーション能力(DP6)	指導教員が定期的にチェックし、コメントを記入する。半年ごとに学科担当教員に提出	教員	JABEE第3部会	学習・指導内容の確認および学習時間の保証として用いる。
5	卒業論文ならびに発表会	2月下旬～3月上旬	毎年	4回生	多面的な視点と倫理観(DP1, 2)、機械工学の基礎力と応用力(DP3, 4)、創造力(DP5)、コミュニケーション能力(DP6)	論文(指導教員・副指導教員による採点)発表会(指導教員以外からの質問)	正副指導教員・学科教員	コース長	発表会終了後、コース会議により討議し、結果を工学系会議に報告する。
6	授業改善のための学生懇談会	5月、11月	年2回	4回生・大学院生(各所属コースから2名ずつ)	授業の感想、授業改善方法など	教員によるグループヒアリング	学生	FD委員	アンケート集計結果を教職員に開示し、今後の教育活動に参考にしてもらう。
7	アドバイザーとの教育改善会議	9～10月	毎年	教育アドバイザー(企業経験者)	機械工学科の教育に関するアドバイス、企業からの要望など(DP1, 2)	会議での討論	教育アドバイザー	コース長	教育アドバイザーの提言に基づいて授業内容を見なおしたり、新しい授業科目を導入した
8	授業改善のためのアンケート	7月、2月	年2回	1～4回生	授業の理解度、満足度など	質問紙	学生	FD委員	結果を公開し、教員に改善のための指針を与える。
9	企業に対するアンケート	3月～7月	数年に1回	求人に来た企業	卒業生の能力や評価(DP1～6)	質問紙	求人に来た社会人	FD委員	アンケート集計結果を教職員に開示し、今後の教育活動に参考にしてもらう。
10	公開授業	不定期	年2回	授業担当教員	授業の優れた点・改善すべき点	質問紙	学科教員	FD委員	質問に対する回答を担当教員に提示し、改善の参考にしてもらう。
11	製図科目改善ワーキンググループ・機械工学実験ワーキンググループ	不定期	年1回程度	担当教員	実験・実習系科目間の連絡調整(DP1～6)	会議での討論	担当教員	担当教員	必要に応じてカリキュラムの修正などを行う。